

ほほ笑み便り NO. 4



平成28年 11月 2日
杉並区立八成小学校
校内委員会

秋の深まりを肌で感じる季節になりました。忙しい毎日ですが、季節の移り変わりを五感で味わい、お子さんと語り合えるような時間がもてるといいですね。

さて、今回のほほ笑み便りでは「作文や日記を書くこと」についてお伝えします。

作文や日記を書くこと

伝えたいことがたくさんあるのに、どのように書いてよいか分からない、なかなか言葉が出てこないなど、日記、作文、感想文を書くのに苦労している子ども達があります。



その原因は？

- ・必要に応じて言葉を思い出すことの苦手さ（言葉が出てこない）
- ・文の組立てや、正しい語順に並べることの苦手さ
- ・全体の文章（全体の流れ）を構成することの苦手さ
- ・そもそも文字を書くことが苦手

・・・などが考えられます。

今回は、文章を書きやすくするために、比較的普段取り組みやすいものをご紹介します。

（１）「イメージを言葉」にする練習

- 「触るとどんな感じがするのかな？」「何色だった？」「どんな味がした？」
（五感で感じること）
- 「今、どんな気持ちでした？」「あの人、どんな気持ちなんだろう？」
（気持ち）
→なかなか気持ちを言い表せない時は、大人が例を言ってあげることも大事ですね。
- 「好きな食べ物は？」「好きなテレビ番組は？」「好きな遊びは？」
（好きなもの）
- 「どんな犬かな？」→「白い」「おとなしい」「よく食べる」「散歩が好き」など
（いろいろな言葉で表してみる）

（２）「言葉を思い出す」ことの練習、言葉ゲームの例

- ゲーム「古今東西山手線」
問題例：「くだものの名前」「給食に出るメニュー」「“あ”のつくもの」
- ゲーム「マジカルバナナ」
バナナと言ったら黄色→黄色と言ったらレモン→レモンと言ったら酸っぱい→酸っぱいと言ったら・・・（順番に言う）

(3) 作文メモ作り（材料を引き出す）

①大人が口頭で質問したり、会話などのやりとりをしたりしながら、子どもの言葉を引き出します。

「天気はどうでしたか？」

「当日の朝はどんな気持ちでしたか？」

「楽しかったことは何ですか？」 など。

楽しい雰囲気、質問をふくらませていきます。言葉が出にくい場合は、選択肢を用意します。

子どもの言葉を一つ一つメモしていきます。

②メモしたものをもとに、子どもと一緒に話の流れや構成を考えます。

③メモした子どもの言葉を使ってまとめ、大人が作文にし、そのとおりに子どもが作文を書いていきます。

（力がついてくると、子どもだけでできるようになります。）

☆作文メモを使った支援は、大人が個別にかかわる必要がありますが、練習を続けていくうちに確実に作文、感想文、日記を書く力が付いていきます。



また、こんなお子さんにも・・・

音読が苦手で、一文字ずつバラバラにして「は、ち、な、り」と読んでしまうような「^{ちくじ}逐字読み」をする場合は、文字と音をスムーズに結びつけられないでいることが考えられます。

このような場合は、音と文字を結びつける力を育てる「しりとり遊び」や単語を逆から読み返す「逆読み遊び」も効果的です。

「しりとり遊び」は、単語の末尾の音を聞き取り、その音から始まる単語を探し出す力を育てます。特に低学年のお子さんにお勧めです。

※イメージを言葉にする練習や言葉ゲームなどは、やった後すぐに効果が表れるというものではないかもしれませんが、言葉を発し触れることや、言葉って楽しいと思えることで、自然と語彙が増えていきます。そして、何よりお家の方や兄弟友達と一緒に、遊びを通して楽しく行うことが子ども達にはとても嬉しいようです。お風呂に入りながら、散歩の道ながら……などちょっとした隙間時間に楽しみながら行ってみてはいかがでしょうか。



※成長や日々の生活の中で気がかりなことがありましたら、下記のいずれかの窓口までご相談ください。

特別支援教育コーディネーター 1-3 担任 池田 03-3399-3138（学校代表）

特別支援教育コーディネーター はちなり学級担任 杉村 03-3399-3181（はちなり学級直通）

スクールカウンセラー 浦山 03-3399-3160（火曜のみ）